

Since 1991～病院と社会を結ぶ NPO (通称ガラガラドン) 活動歴 27 年。東京・新宿区の国立国際医療研究センター、東京女子医大など高度医療の病院を中心に難病の子どもと家族を応援。ハウスグランマを拠点に、遊びのボランティア派遣や退院後のトータルな支援をめざす。2018 より付添い家族の食事提供「お母さん食堂」も。

Garagaradon Summer Vacation 2018



“がんばれ！子供村”より 6 家族 12 人が招待されました

子を亡くした親たち 癒しの夏休み —6 家族が泊まって食べて語り合っ—



リボンストラップを作りながら



豪華なご馳走・飲み放題



かつての闘病仲間とかんぱい



写真を見ながら我が子の日々を語り合うみなさん



この度は素敵なホテルにご招待いただきましてありがとうございます。優しいホテルの皆様、綺麗なお部屋、広いお風呂、美味しいお食事に、たくさんのお室内レジャー、こんなに全てが充実しているホテルに初めて泊まりました。☆を付けられるのだと少しは嬉しかったです！

私たち夫婦は約2年前に0歳だった息子を小児がんで亡くしました。失意のどん底だった私たちにまた天使が産まれてきてくれて、今回その天使(次男)とともに无邪魔させていただきました。次男はホテルのプールで楽しそうに遊んでおりました。とても素敵なホテルでしたので、また伊豆に行ったら絶対お邪魔したいと思っています。また伊豆に行ったらこの度はこのような機会を与えていただきましてありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

N・A

この度は大変良い時間を過ごさせていただきました。有難うございました。私は2018年6月28日に3ヶ月の娘を亡くしました。生後3ヶ月の時に悪性脳腫瘍が見つかり、手術、抗ガン剤治療、放射線治療を経験しました。娘のそばで24時間付き添い、ほほ寝たきりの状態でしたが、辛い中にも小さな表情の変化や手足の動きで周りに癒やしをくれる存在でした。本当に最後まで精いっぱい生きてくれました。生前、家族で緑いっばいの中にあるホテルに泊まったことがありました。今回、お誘いいただいたアランダの森ホテルのホームペーを拝見して、その時のことを思い出しました。また、参加するきっかけを下さった方々は闘病中に私たち親子を温かく見守り、支えて下さいました。是非参加したい。またお逢いしたいと思ひ、こんな不安定な気持ちのまま迷惑をおかけしないでも、娘が「行きたい」と言っている気がしました。

ホテルまでの道のりは海や山の景色がたくさん見られ、とても癒やされました。ホテルに着くと温かく迎えて下さり、またホテルの環境、サービスにもとても感動しました。

案内をして下さる時には必ず「暑いので気をつけて」「いつてらっしゃいませ」と丁寧で温かい言葉を添えていただき、私も穏やかな優しい気持ちで泊2日過ごすことが出来ました。同じように子どもを亡くされた家族の皆様との時間は私にとってかけがいのないものになりました。

皆さんの経験、お話しを聞かせていただくことができ、また、私自身の話をできる場がとても嬉しかったです。それぞれ状況は違っていますが、大切な我が子を失ったことは変わりなく、皆さんと居る空間は言葉がなくても心地よく、癒やされました。

先のお見えない不安やどうしようもない想いを皆様のおかげで少し光が見えました。娘がつかないでくれたご縁が今の私の支えです。娘がつかないでくれたご縁が今の私の支えです。

このような機会を作ったNPO法人病気の子ども支援ネットワークのボランティアの皆様と心癒やされるサービスと環境を提供して下さいました。アランダの森ホテルの皆様には心から感謝いたします。ありがとうございます。

K・Y

4年前に一人息子を1才で亡くしました。生まれた時から、18トリソミーという染色体異常の病気で、1年生から1年間、息子と私たち夫婦の病院生活が始まりました。息子は、一生懸命がんばって、1年と8日間生きて、神さまのもとに召されたところ。その後、私にも何か出来ることはないかと探していたところ、遊びのボランティア”と出会ったのです。このボランティアは、病気の子どもと遊ぶ、しかも病院の中で、という活動です。

この旅行にお誘いをいただいた時、何か、今までの自分が招待されるなんて・・・と思ひながらも、うれしかったです。

ホテルに着いたらビックリです。水もお茶もアイスコーヒーも、そしてワインやアイスまで自由にごどうぞ！とのこと。感激しました。また卓球台は3台、ビリヤードや今流行りのポルタリングまで！部屋に帰るときにフラフラになるくらいまで夢中になって卓球をしてしまいました。また食事もお客さんの種類があり、食べる人の気持ちも思いつく量も、本当に少しずつ分けられていて、おかげさまで色々なおかげさまでチャレンジできました！

お風呂もゆったり入れましたし、部屋にはマッサージ機まであって、本当に、なんて、いたれりつくせりのホテルなんだ！と気持ちがあがりっぱなしです。そして何よつたことが、とても気持ちよかったです。

夜は、皆で1つの部屋に集まって、自分のことを話したり、他の人の話を聞いたりして過ごしました。子どもが病気になるまで、本当に、それぞれの家族の戦いがあるのだと知りました。病気になる子ども本人の戦いがある。そして、母として、父として、そして兄弟として、それぞれの立場での必死の戦いがあることを知りました。

時には涙し、時には笑い、あの空間で、自分の心を開放するというか、解放できました。悩みやつらさ悲しみ、痛みを一緒に解決することはできませんが、それでも、一晩、一緒に遊んで、ご飯を食べて、語り合えたことが、2018年の夏の思い出が生まれました！

ガラガラドン I・M

9年間にがんばれ！子供村より招待を受けた家族は延53家族(156人)

招待年	家族組	家族数 (病児・親・兄弟)	合計
2010年	6	(6・7・1)	14
2011年	7	(7・8・3)	18
2012年	6	(6・9・5)	20
2013年	7	(7・9・4)	20
2014年	8	(8・11・6)	25
2015年	5	(5・7・2)	14
2016年	4	(3・8・4)	15
2017年	4	(3・8・7)	18
2018年	6	(0・9・3)	12
計9回	53	(45・76・35)	156

